



2025年2月19日

各 位

会 社 名 三 和 油 化 工 業 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員 柳 均
(コード番号：4125 東証スタンダード・名証メイン)
問 合 せ 先 取 締 役 執 行 役 員 経 営 管 理 部 長 熊 崎 聡
(TEL 0566-35-3021)

2025年3月期 第3四半期決算補足説明資料の追加について

当社は、2025年2月10日に決算補足説明資料の開示を行いました。本日付にて内容を一部追加し、追加内容を含む決算説明補足資料を開示いたします。

記

1. 追加の内容

決算説明補足資料の14ページ目に添付の通り「営業利益増減要因分析」を追加しております。

以上



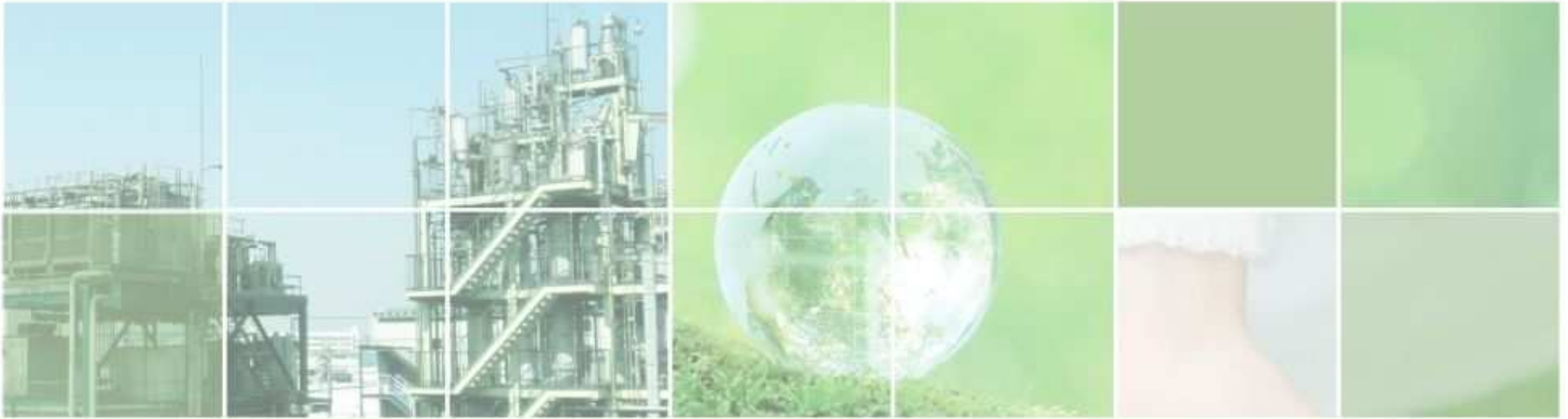
三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場
証券コード：4125



2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2025年2月19日



2025年3月期 第3四半期 決算概要



2025年3月期 第3四半期累計

売上高	営業利益	営業利益率
11,988百万円 【前年同期比】+0.3% 	625百万円 【前年同期比】△41.6% 	5.2% 【前年同期比】△3.7PT 

事業環境

- 国内の企業業績は緩やかに回復しつつあるが、一部を除いた半導体・電池業界では回復に遅れ
- エネルギー価格・原材料価格・運賃や人件費等の高騰により、コスト負担は増加傾向

内部対応

- 半導体・電池・電子部品業界向け製品供給、廃棄物の再資源化及びエンジニアリング事業に注力
- 将来の需要増加に対応するために、設備投資による製品供給能力の増強および九州地区に子会社設立
- 事業拡大の準備のため人員増強やDX投資等は継続的に実施

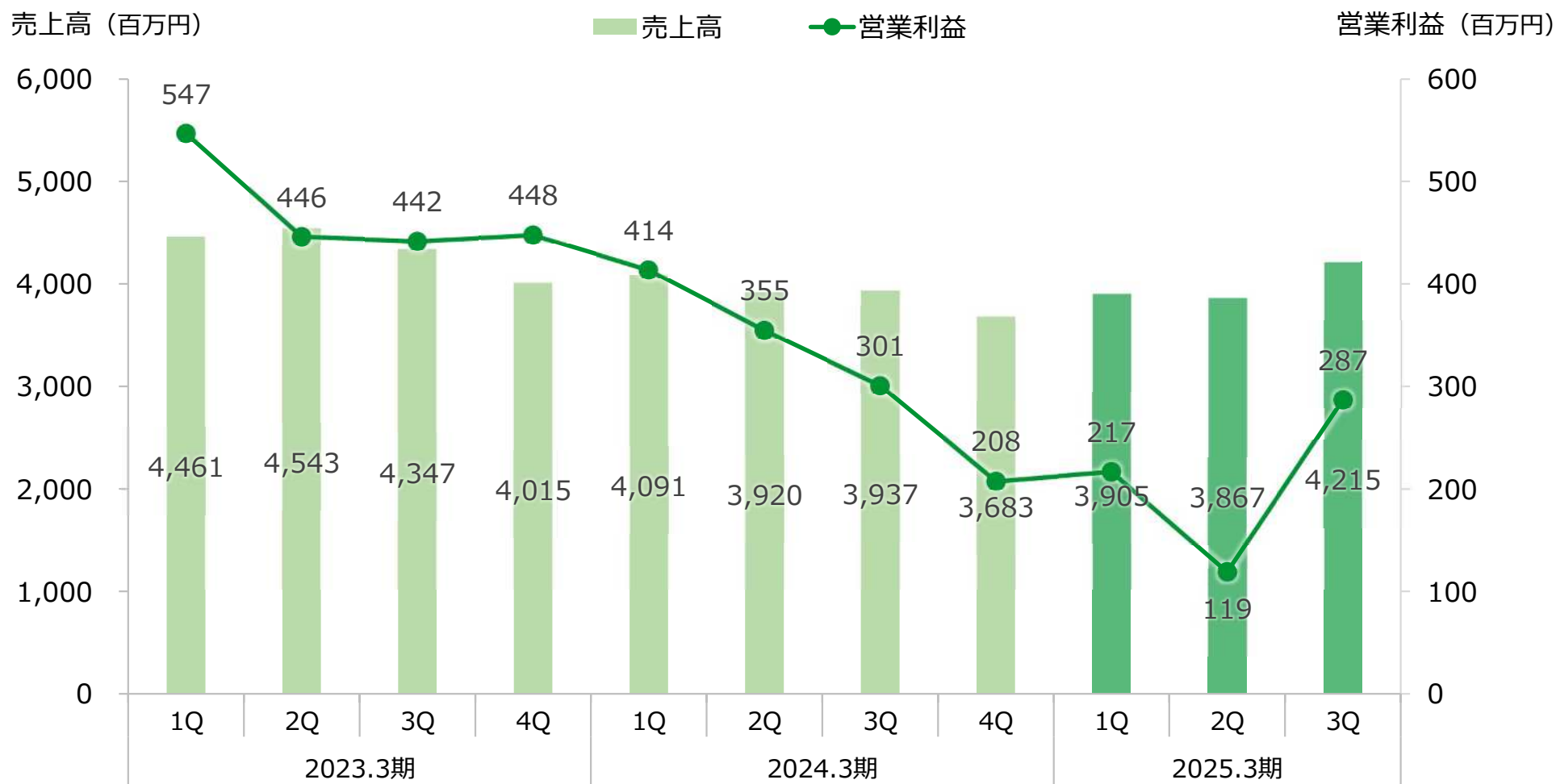
⇒ 再生製品販売は堅調だったものの、ファインケミカル品等の販売不振により売上は横這い

⇒ 将来に備えた先行投資及びコスト上昇等により利益率が低下

- ファインケミカル品の販売不振や産業廃棄物の引取単価低下等により売上が伸び悩み
- 再生製品原料の仕入単価・外注運賃等の上昇により売上総利益率が低下

(単位：百万円)	2024年3月期 3Q累計		2025年3月期 3Q累計		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	前期比
売上高	11,949	100.0%	11,988	100.0%	+39	+0.3%
売上総利益	3,582	30.0%	3,311	27.6%	△270	△7.6%
営業利益	1,071	9.0%	625	5.2%	△445	△41.6%
経常利益	1,109	9.3%	694	5.8%	△414	△37.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	752	6.3%	454	3.8%	△298	△39.6%

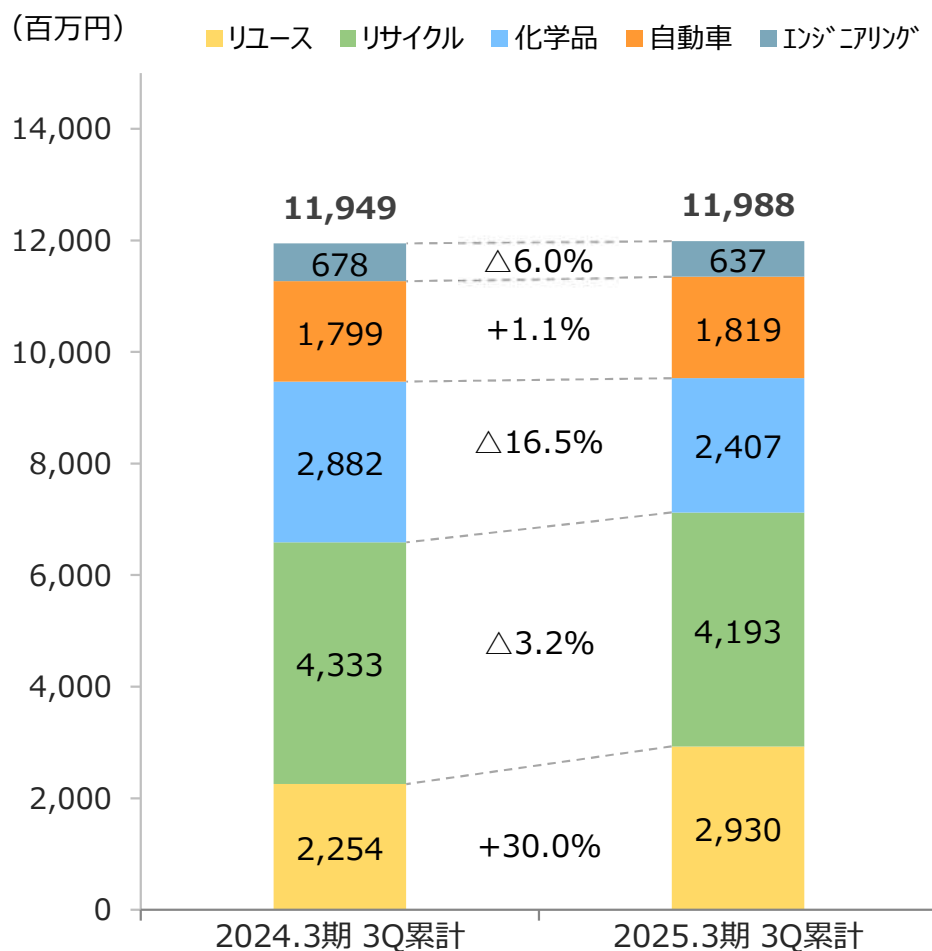
- 電池業界向け製品の需要が一時的に回復し増収・増益に貢献
- 利益率の低下及び人員増強・DX投資等の固定費増加により増益幅は限定的



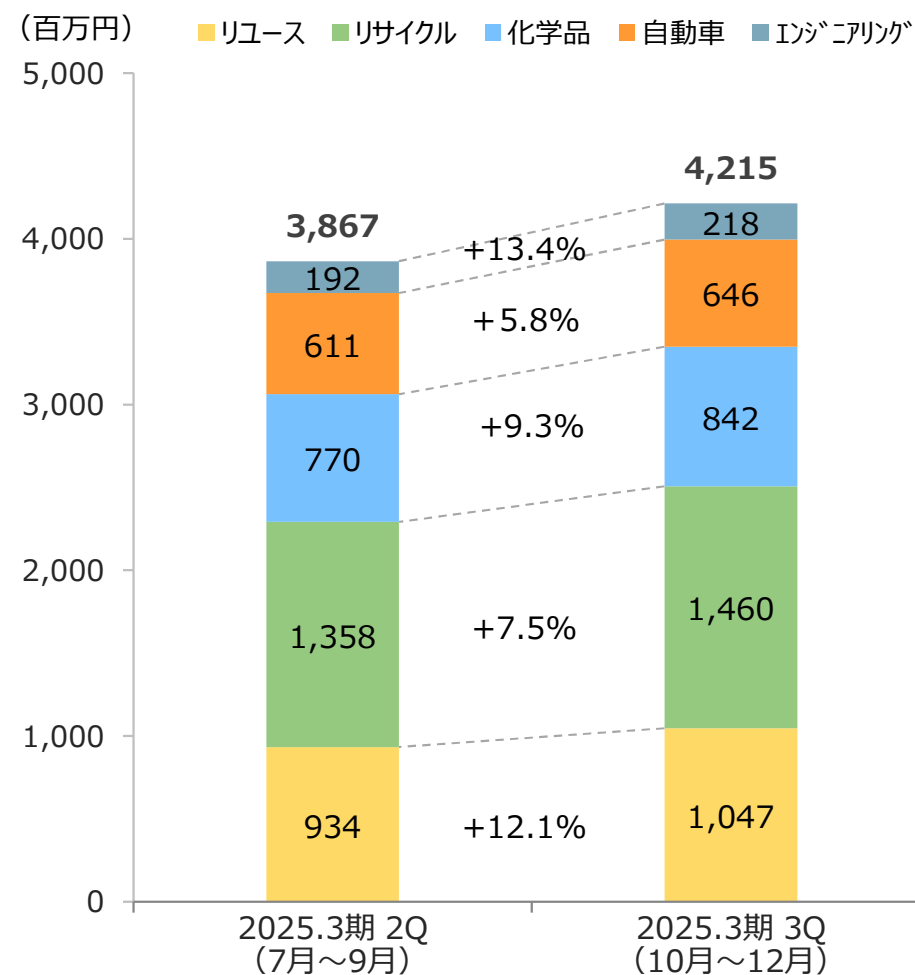
- リユース事業は再生製品販売の数量・単価ともに上昇し売上高は堅調に推移
- 化学品事業はファインケミカル品が販売不振にある中、電池業界向け製品が一時的に需要回復

前年同期比 (YoY)

※ 24.3期 3Q累計は分類変更後の区分に組み換えしております



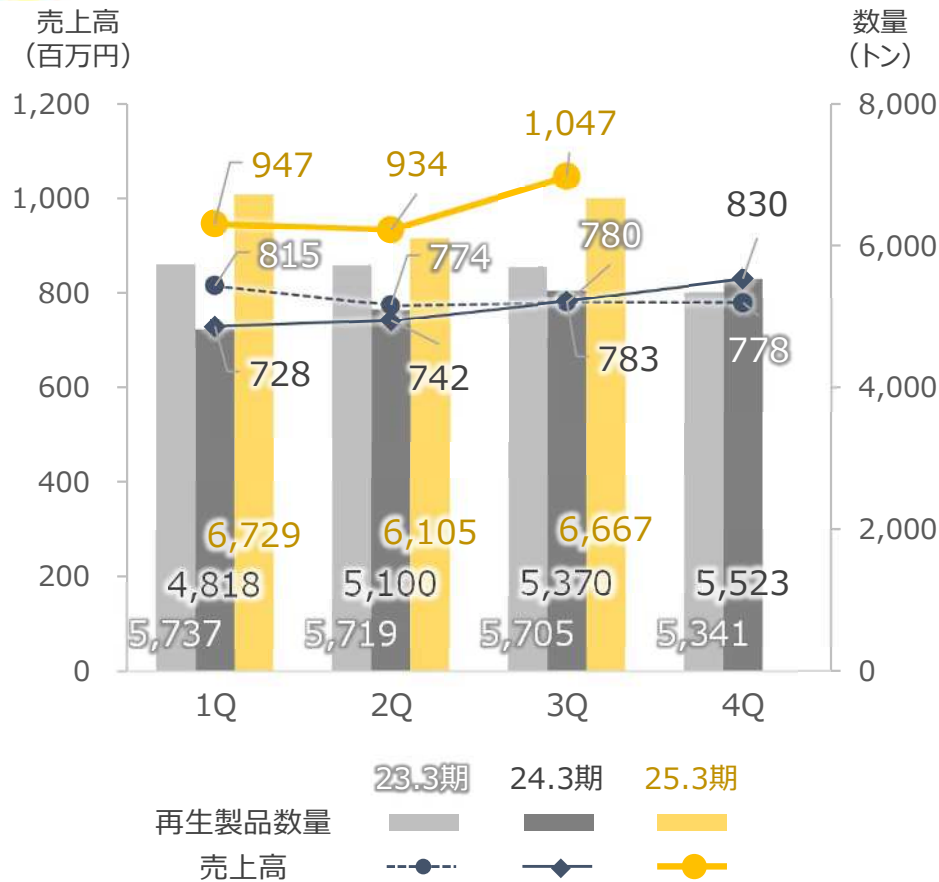
前四半期比 (QoQ)





リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）

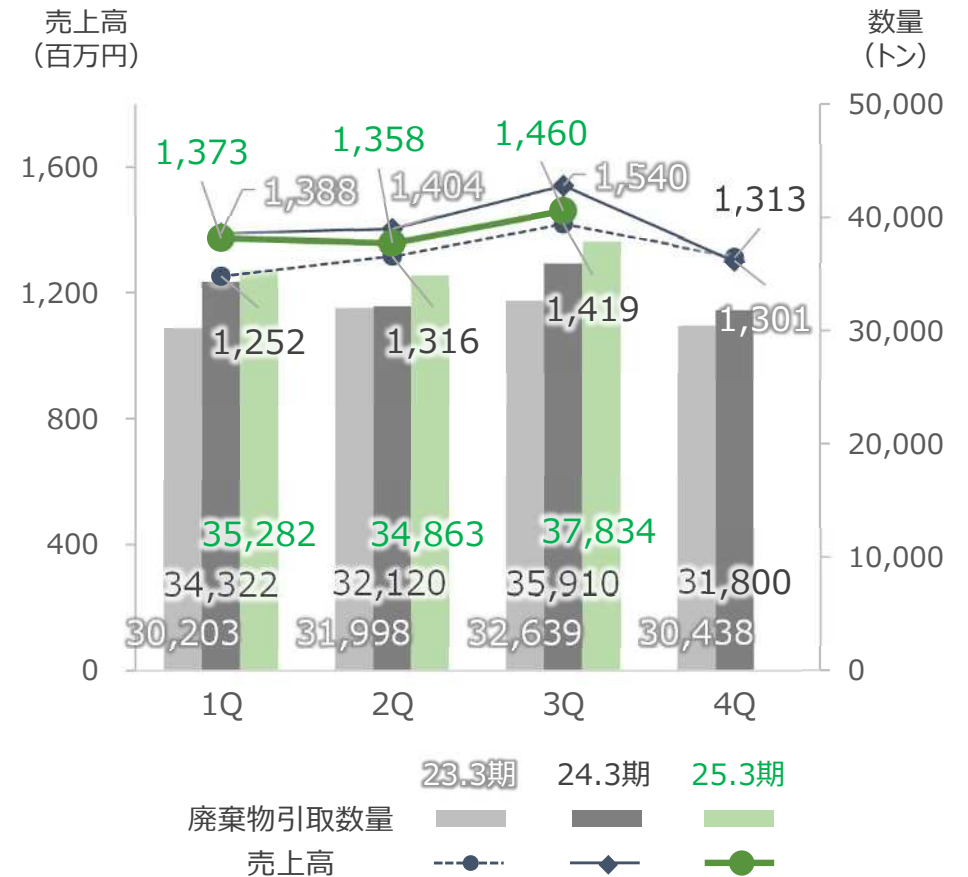
リユース事業



リユース事業売上と再生製品販売数量

- 溶剤系再生製品は数量・単価ともに前年より上昇
- 再生品原料となる使用済化学品の仕入単価も上昇

リサイクル事業



リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

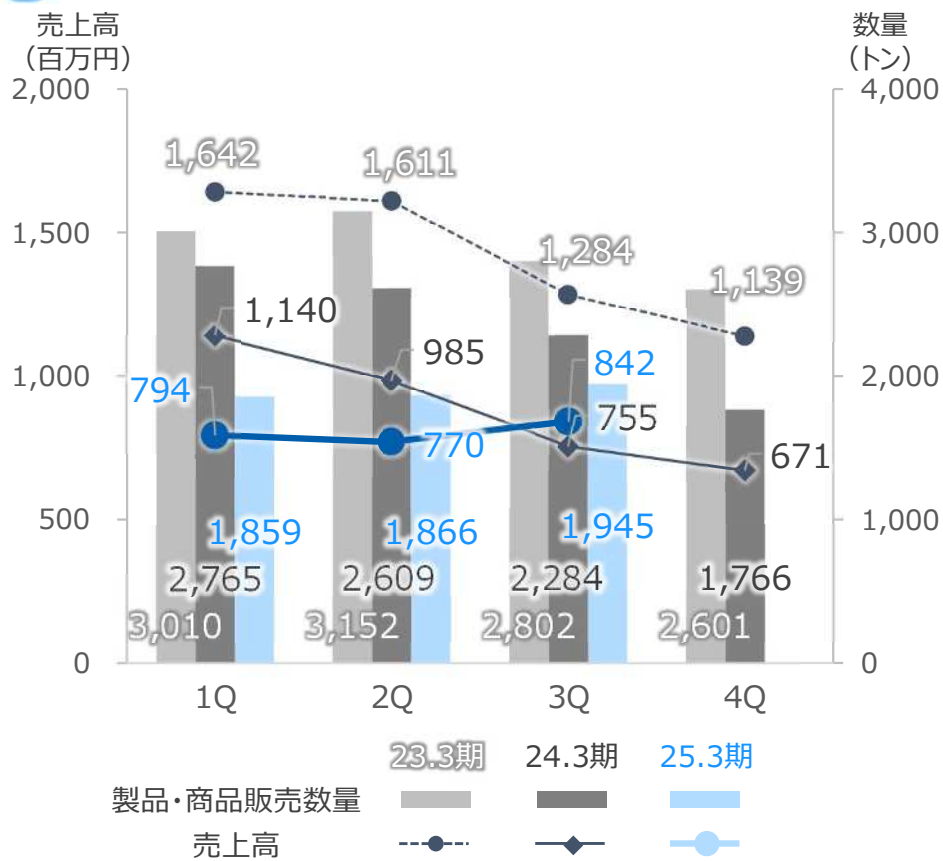
- 廃棄物由来燃料の引合増により再生燃料の販売数量増加
- 引取単価の高い難処理物の収集量は減少

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品、自動車事業（四半期ごとの推移）

化学品事業



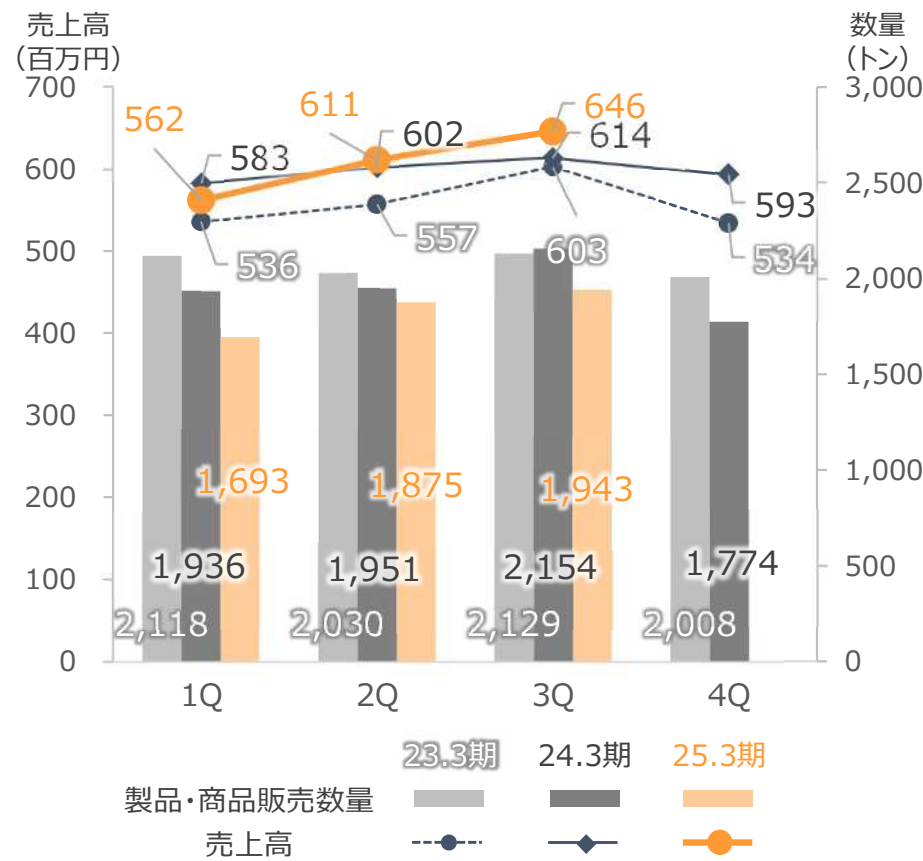
※ 製品：当社グループが品質保証する製造品 商品：転売品

■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 半導体業界向け**ファインケミカル製品**は底を打ち回復の兆し
- 電池業界向け**主力製品**は需要回復したが先行き不透明

自動車事業

※ 23.3期及び24.3期は分類変更後の区分に組み換えしております



■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

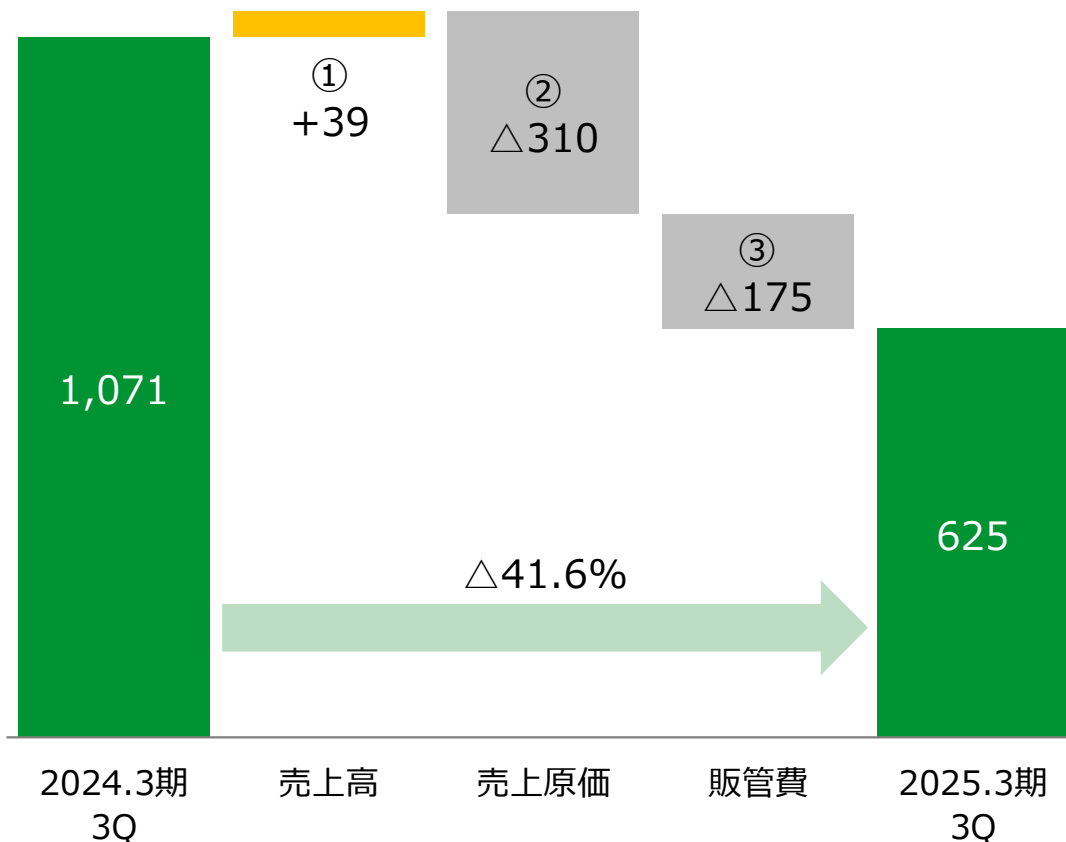
- 原料価格の上昇により販売単価は上昇
- 洗浄剤等の一部製品で数量増加

※ グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前年同期比）

- リユース事業は数量・単価上昇も化学品事業の回復の遅れが顕著
- 再生製品原料の単価上昇、運賃等の売上原価上昇が重荷となり限界利益が低調

(百万円)



① 売上高

- 〈+〉【RU】再生溶剤販売は数量・単価が上昇
- 〈-〉【RC】高単価な難処理物の収集が不調
- 〈-〉【化】一部溶剤の単価下落により売上減少

② 売上原価

変動費

- 〈-〉【RU】再生製品原料の単価上昇
- 〈-〉【全】外注運賃コストの増加

固定費

- 〈-〉投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 〈-〉電気・ガス等のエネルギーコスト上昇

③ 販管費

- 〈-〉業績不振による賞与圧縮で人件費増加は限定的
- 〈-〉東京支店の移転等により賃借料増加
- 〈-〉システム刷新等のコンサルティング費用増加

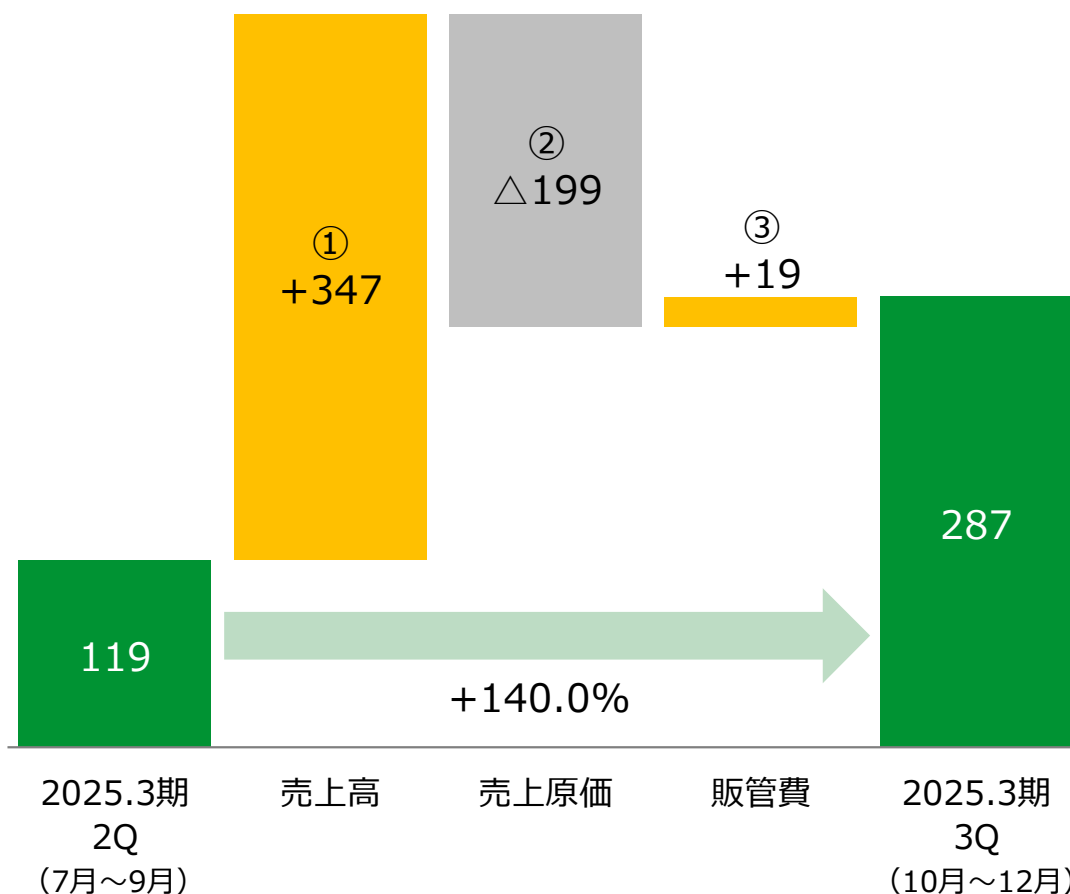
〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 再生製品販売の好調及び電池向け製品の一時的な需要回復により売上が増加
- 原料・商品・容器代・運賃等の原価も上昇しているため都度**売価への転嫁も実施**

(百万円)



① 売上高

- 〈+〉【RU】再生溶剤・再生リン酸の数量が伸長
- 〈+〉【化】電池業界向け製品の売上が一時的に回復
- 〈+〉【自】原価上昇を売価に転嫁し売上上昇
- 〈-〉【RC】引取単価の高い**難処理物収集に課題**

② 売上原価

変動費

- 〈-〉【RU】再生製品原料価格が上昇
- 〈-〉【全】商品仕入・容器代等が上昇

固定費

- 〈+〉賞与支給額減少により人件費圧縮
- 〈-〉新設備の償却開始により**減価償却費増加**

③ 販管費

- 〈+〉教育研修費、消耗品費等の経費圧縮

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

貸借対照表

(単位：百万円)	2024年3月期末	2025年3月期 3Q末	前期比 増減額	コメント
流動資産	7,076	5,330	△1,745	設備代金支払等により現預金減少
固定資産	14,046	14,658	+611	設備投資により償却資産が増加
資産合計	21,122	19,988	△1,134	
流動負債	4,928	3,900	△1,027	設備代金支払により未払金等減少
固定負債	4,114	3,675	△439	長期借入金の返済が進行
負債合計	9,043	7,576	△1,466	
純資産合計	12,079	12,412	+332	合併会社設立により非支配株主持分が増加
負債・純資産合計	21,122	19,988	△1,134	



2025年3月期 業績予想

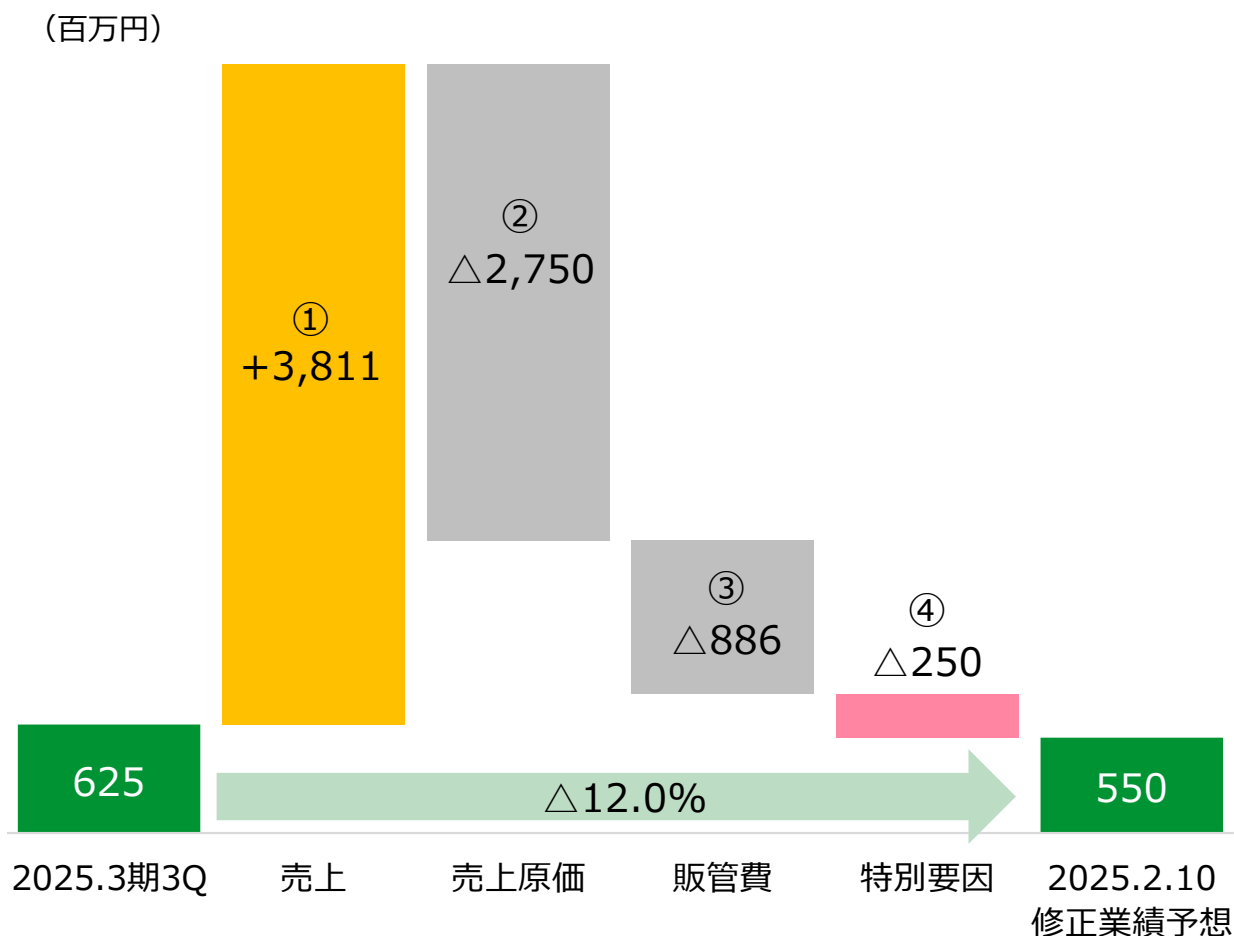


- 期待していた**半導体・電池・電子部品業界からの需要増加が限定的**
- **利益率改善が課題**であり、原価率の圧縮、経費の削減等に継続的に取り組む

(単位：百万円)

		2024年11月8日 修正業績予想	2025年3月期 3Q実績	進捗率	2025年2月10日 修正業績予想
売上高	リユース	4,082	2,930	71.8%	4,000
	リサイクル	5,582	4,193	75.1%	5,450
	化学品	3,415	2,407	70.5%	3,000
	自動車	2,373	1,819	76.7%	2,350
	エンジニアリング	1,019	637	62.6%	1,000
売上高 計		16,473	11,988	72.8%	15,800
営業利益		1,037	625	60.3%	550
経常利益		1,098	694	63.3%	610
親会社株主に帰属する 当期純利益		738	454	61.6%	400

- ファインケミカル製品を中心に期待していたほどの需要増加が見込めない予想
- エレクトロニクス業界の中長期的な成長には期待しており、将来のための投資計画に変更なし



① 売上高
 〈-〉【化】EVの成長速度の失速等による
 ファインケミカル製品の販売不振
 〈+〉【全】コスト上昇分を適宜売価に反映

② 売上原価
 変動費
 〈+〉【化】売上減少による原材料費等の減少
 〈-〉【全】外注加工費・運賃等は高止まり
 固定費
 〈-〉蒸留塔の稼働開始に伴う減価償却費増加

③ 販管費
 〈+〉業務委託費等の管理費圧縮

④ 特別要因 (2025.3期4Qのみ発生)
 〈-〉退職給付会計の基準変更により費用増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
 【化】化学品

2025年3月期 3Q

- 半導体・電池・電子部品業界の回復の遅れや、中国での需要減退により、一部ファインケミカル品で需要回復したものの、サプライチェーン在庫の増加等によりマーケット価格は下落

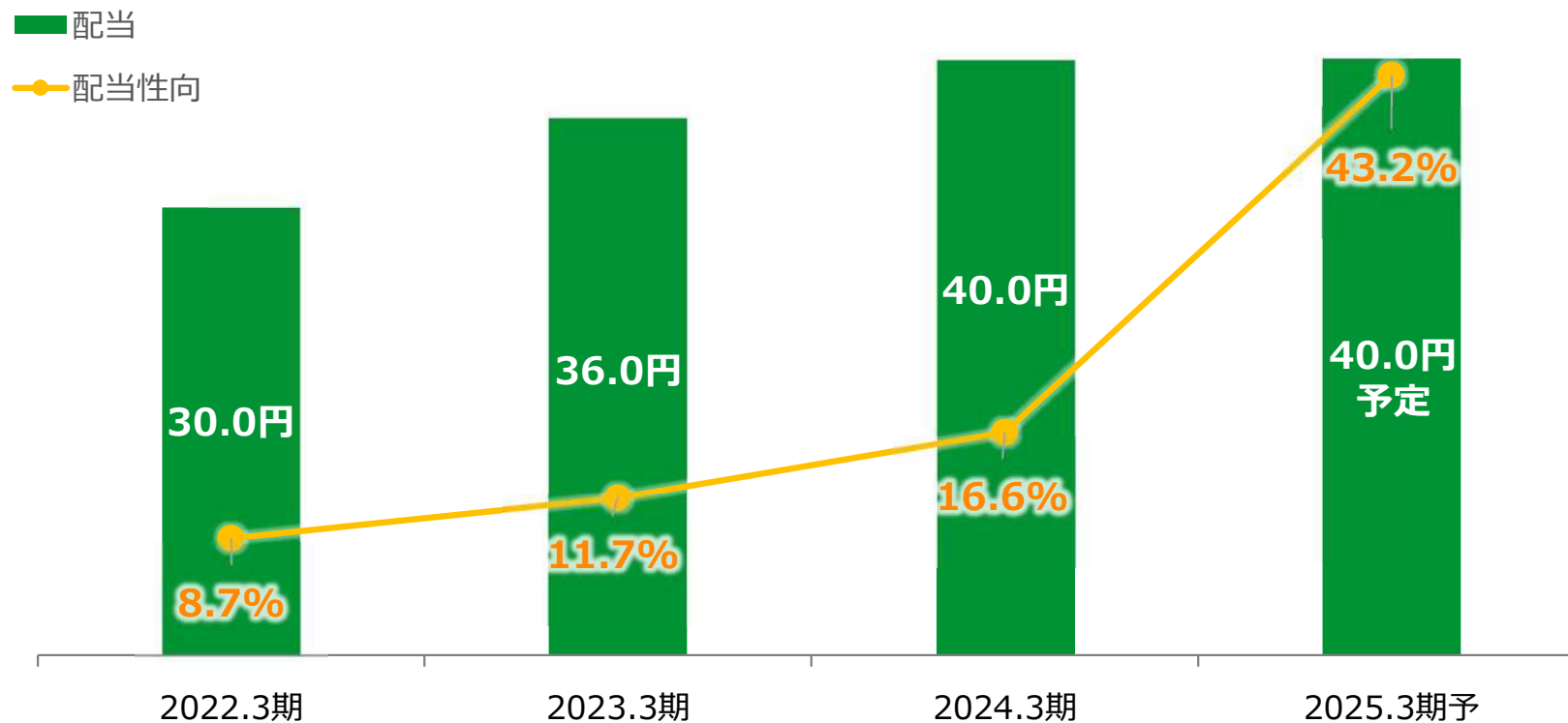
2025年3月期 4Q以降

- 利益率改善が大きな課題であると認識しており、採算性の低い取引の整理、及び原価低減・経費削減等のムダの排除によるコスト削減も継続的に実施
- 成長が見込まれる半導体・電池・電子部品業界等の需要増加に備え、設備投資・人員増強・人材教育・DX化等の将来投資は計画通り実施
- 当社の収益・利益計画に遅れはあるものの、中長期的な計画に変更はなく、半導体・電池・電子部品業界が活況となれば、その需要をしっかりと取込み、グランドビジョン2030達成に向け成長を加速させる

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、
安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向



※2022.3期の1株あたり配当金30円につきましては、普通配当25円のほか記念配当5円を含んでおります。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。